



## ■ 地域医療機関との役割分担を進め急性期機能を強化

患者紹介率・逆紹介率の指標は、地域の医療機関から新患として紹介を受けた患者さんと荻窪病院で急性期の治療を終えた方、より高度で専門的な検査や治療が必要な患者さんを他院に紹介した比率を示しています。

政府は 2014 年に可決された医療介護総合確保推進法により、予測される医療需要に応じて医療圏ごとの病床の機能調整と配置に取り組んでおり、今後数年間で各医療機関はその機能が特定されます。日々の日常的な診察や疾患相談については地域のかかりつけ医が受け持ち、荻窪病院のような急性期病院は急患やかかりつけ医から紹介を受けた患者の治療を担う事となります。

そのためには医療機関同士が連携しそれぞれの役割を最大化する事が必要です。2016 年度は 2015 年度と比較し紹介率において 9.8%、逆紹介率において 15.8%向上しました。



第 9 回荻窪病院 医療懇話会の様子  
(2017 年 12 月 7 日 開催)

毎年 1 回定期に開催している医療懇話会では地域の開業医の先生方を対象に当院の事業方針と各科の医師から症例の報告を行っています。地域医療を支える開業医の先生方との情報交換を通じて、顔の見える連携を心がけ相互に協力補完できる関係作りを目指しています。

※本指標は地域医療支援病院の認定に必要な定義式で集計しております。